

# 事業完了後の持続的で魅力的なまちづくり(エリアマネジメント)

地域名 小山市 小山東部第一地区  
 パートナー名 小山東部第一土地区画整理組合  
 (市街地整備課 金澤千明)

12班 コミュニティデザイン学科 阿部七楓・麦倉悠斗  
 建築都市デザイン学科 五十畑尚人・村上由真  
 社会基盤デザイン学科 白倉大夢

## 1. 背景

小山東部第一地区では土地区画整備事業が行われている。小山駅や幹線道路が近く、地区のシンボルである平成通りは広い歩道が整備され、街路樹の緑も豊かな住みよい環境。

事業完了後は、道路・植栽等の管理主体が小山東部第一土地区画整理組合から小山市に移管する。

そのため、今まで組合が行ってきたような手厚い管理ができなくなることから地区の持続性が問われている。



## 2. 目的

本課題の解決のために、住民を巻き込んだまちづくりが必要である。しかし新興住宅地では、住民同士のつながりがまだ弱いのではないかと…?

→昨年結成したまちづくり仲間「つどいの場109」とも協力し、住民コミュニティの形成を手助けすることを通して地区の持続的で魅力的なまちづくりを進める。

## 3. 活動内容の概要

現地訪問	ヒアリング	交流会
5/25 対象地域である広場及び周辺的环境を確認。	12/7 対象地域内に	12/19 つどいの場
	て市民への聞き取り調査を実施。	109との交流会を実施。

## 4. 調査方法と分析結果

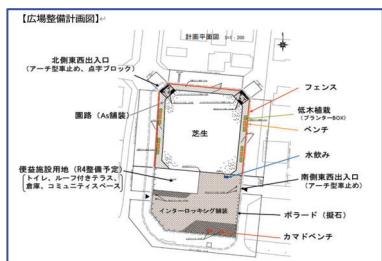
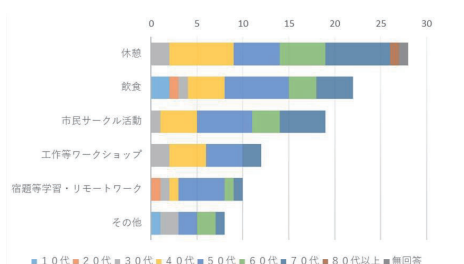


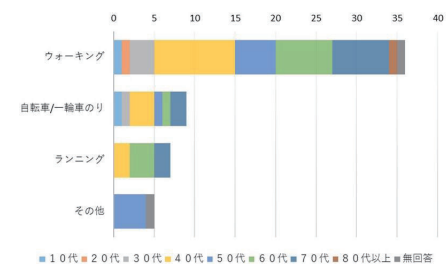
図1 広場整備計画図

現地の対象地域にて、ヒアリングとアンケート調査を行った。以下は広場内の各施設における年代別のやりたいことの希望を調査し、ヒアリング・紙面でのアンケートの結果(計45票)を集計したものである。(図2~6)



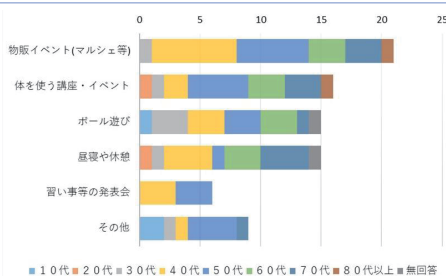
### ○屋内コミュニティスペース

休憩や飲食の場としての利用と、それに次いで市民サークル活動等の近隣住民との交流の場としての活用が期待されている。また、管理主体をどうするのか問う声も見られた。  
 その他の意見：フリーマーケット  
 フリースクール



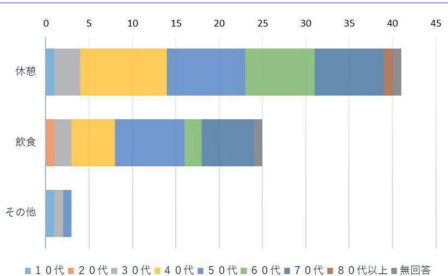
### ○広場を周回できる園路

全世代を通してウォーキングの場として使いたいとの声が多かった。また、自転車とランニングのコースを分けるなど、安全面に関する意見もあった。  
 その他の意見：スケートボード  
 キッチンカー



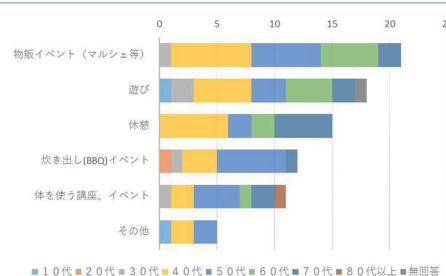
### ○芝生の広場

マルシェ等への活用が一番要望が高いが、他の活用にも多くの世代から望む意見がある。  
 その他の意見：ブランコのような遊具  
 中高年用の健康器具



### ○あずまや/ルーフ付きテラス

全世代を通して、飲食や休憩の場所として希望されている。40代~60代の中高齢から子どもまで使える場所になるよう望む意見があった。 その他の意見：編み物  
 打ち合わせ



### ○インターロッキングの舗装広場

世代によってさまざまな意見があるが40代~60代はマルシェの開催を希望する声が多い。  
 その他の意見：自転車/一輪車のり  
 縄跳び

## 5. つどいの場109のWS 一次年度のイベント企画と広報

### ①つどいの場109が主体となったお試イベントの開催

来年度以降のつどいの場109の活動として、12/19に開催したWSで企画出しをした縁日や青空教室などについて、来年度も引き続き企画会議を行い、実際開催する。そのことにより、広場の活用方法や可能性を検証することができる。



図7：今年度開催されたWSの様子

### ②広場のPR活動

「みんなの広場」であるため、対象地域の方々にこの広場のことを知ってもらえるようなPR活動を行う。今回行ったヒアリング調査により、広場の認知度があまり高くないことが分かった。現在、小山市市街地整備課により運営されているFacebookアカウント(図参照)では広場に関する情報を掲載している。対象地域内にある食料品販売店や飲食店など、人が多く集まる場所にアカウントのフォローを勧めるポスターを設置し、アカウントのフォローと閲覧により認知度を上げることができる。と考える。



Facebookアカウント写真



アカウントQRコード